

気仙沼市内湾地区の 国登録文化財群の復興プロジェクト



【事業者】気仙沼風待ち復興検討会

【対象】気仙沼市内湾地区（風待ち地区）の被災した国登録文化財群

※「風待ち」…かつて港を出る帆船が船出に適した風を待ったためこう呼ばれる。

1

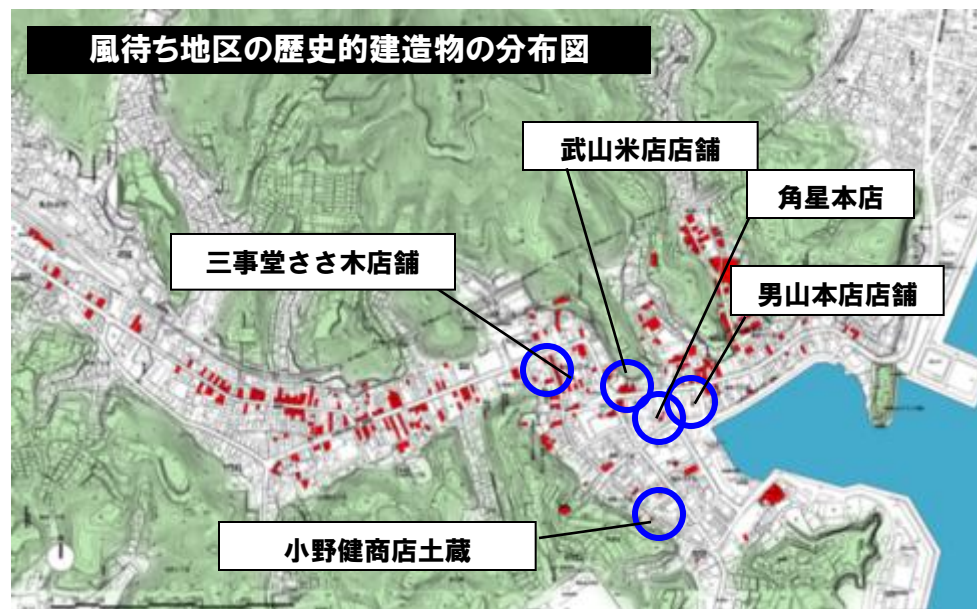
事業の背景と目的

(1) 事業の背景

- 風待ち地区には昭和4年の大火後に、和洋様々なデザインの凝った復興建築が建てられた。
- 地元建築士等による「風待ち研究会」が調査して、国登録文化財の登録が進められていた。

※平成20年度「NPOによる文化財建造物活用モデル事業」により実施された

- 東日本大震災により同地区は大きな被害を受けた。
- 国登録文化財5棟が破損しながら残存した。
- 大規模復興整備が想定され保存が危惧された。



(2) 事業の目的



男山本店店舗



角星店舗



武山米店店舗



三事堂ささ木
店舗、住宅等



小野健商店土蔵



- 風待ち地区に残された貴重な登録文化財群を修復し、歴史文化を活かした復興まちづくりに資する活用を図る。
- 風待ち研究会有志、住民や市役所有志、外部応援団により「**気仙沼風待ち復興検討会**」を設立、活動を開始した。

2

事業の内容

(1) 検討会の開催：保存活用方針を議論

- 専門家を招き検討会を6回開催した。
- 所有者と意見交換を重ね、今後の復興の中で活かす方向性を共有していった。
- 外部専門家が中心になり、復興計画の中で保存活用できる工法や費用を検討した。



(2) 被災登録文化財、地区の歴史的建造物の調査

- 文化財の破損状況、歴史的建造物の分布調査など。

(3) 内外からの募金による応急修理工事の監理等

- SOC基金（東日本大震災被災文化財復旧支援事業）の支援が決定した。
- 応急修理の方法を検討し、施工者の手配等を行った。



(4) 検討会からの情報発信

- 応急修理をアピールする垂れ幕の設置を行った。
- 「風待ち通信」を作成し、会員HP等で配信した。
- 市民向け報告会を開催する予定（3月10日）。

・この建物(武山米店店舗)は国登録有形文化財です。
 ・国内外の募金により応急修理されています。



文化財保護・芸術研究助成財団(東京都台東区上野、理事長:宮田高平)は、東日本大震災で被災した文化財の復旧支援活動の一環として、ワールド・モノメント財団(World Monuments Fund/WMF) / 米国ニューヨーク、理事長:ボニー・バーナム)と連携し、被災地域主導での復旧活動を広く国内外に支援を訴えるキャンペーン「東日本大震災被災文化財復旧支援事業(Save Our Culture)心を救う、文化で救う」(以下「SOC」という)を開始しました。
 SOCは、文化庁の協力を得て実施しています。



写真:復旧前

気仙沼風待ち復興検討会



文化庁


<http://save-our-culture.jp>

気仙沼風待ち復興検討会
気仙沼風待ち通信 速報


風待ち地区には歴史的建造物が数多く残っています！！

- 気仙沼市内の地区(瀧内風待ち地区)には、東北有数の価値ある歴史的建造物が残して分布しています。東日本大震災の被災前から知られていたが、被災後の調査で約 350 棟近い歴史的建造物があることが確認されています(下の地図は 2011 年 6 月に調査した分布図です)。
- これらの歴史的建造物は、復興まちづくりに活用できるまちづくり資源です。全国の歴史的市街地で、こうした歴史的建造物を活かして地域の活性化等に役立てる取組みが行われています。風待ち地区の歴史的建造物も観光や個性ある地域づくりに大きく寄与できる資源です。
- 歴史的建造物の活用を考えるため「気仙沼風待ち復興検討会」が発足しました。官民の3ヶ団体、市民や研究者、市職員の有志、全国の専門家等が結集しました。文化庁の「7/10」等による文化財建造物の管理活用事業」の支援を受けて活動しています。
- 風待ち地区の歴史的建造物や、検討会の活動について、「気仙沼風待ち通信」で情報発信していきます。今後も定期的な活動や調査の成果をお伝えしていきたいと考えています。


・この建物(男山本店店舗)は国登録有形文化財です。
 ・国内外の募金により応急修理されています。
 ○平成24年9月に応急修理の曳き家工事が実施されました。



文化財保護・芸術研究助成財団(東京都台東区上野、理事長:宮田高平)は、東日本大震災で被災した文化財の復旧支援活動の一環として、ワールド・モノメント財団(World Monuments Fund/WMF) / 米国ニューヨーク、理事長:ボニー・バーナム)と連携し、被災地域主導での復旧活動を広く国内外に支援を訴えるキャンペーン「東日本大震災被災文化財復旧支援事業(Save Our Culture)心を救う、文化で救う」(以下「SOC」という)を開始しました。
 SOCは、文化庁の協力を得て実施しています。



気仙沼風待ち復興検討会



文化庁

<http://save-our-culture.jp>

風待ち地区の歴史的建造物の分布図

地図中に赤い点で示された建物が歴史的建造物と見られます(2011 年 6 月調査)。
 青丸は国登録有形文化財です。



男山本店店舗
 瀧内風待ち地区
 男山本店店舗
 男山本店店舗
 男山本店店舗

(5) 復興に寄与する活用実験：

一関、千厩と連携したモニターツアー

- 検討会で風待ち地区の歴史文化のストーリーをつくった。
「黄金を運んだ歴史街道を行く」「昭和、平成の災害からの復興と反映の歴史を辿る」
- 被災した登録文化財を公開し、所有者の話を聞く場を設けた。
- 第二のふるさとと感じてもらえるよう、おもてなしに努めた。

歴史街道マップ ( は右ページに解説があります)



(1) 風待ちの歴史的建造物の価値が明らかになった。
(被災しても、まだまだ高い価値がある。)

- 重要な歴史的建造物を登録文化財候補としてリスト化。
- 登録文化財の調査では大火復興の痕跡も明らかに。
(耐火を考慮した材料、新工法の導入など)

(2) 復興に伴う都市基盤整備と連動した
保存活用計画ができた。

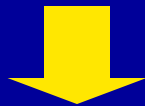
- 関係者間で最終到達目標と段階的手法が共有できた。
- とくに復興計画部門と目標共有ができた。
- 各段階の工費を算定し、資金調達目標ができた。

(3) 復興の第一段階として応急修理が無事完了した

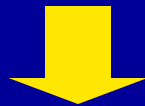
●着実に前進している印象を市民にも与えた。



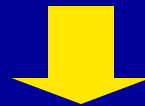
男山本店店舗本店



角星店舗



武山米店店舗



小野健商店土蔵



応急工事の竣工は復興の第一歩として受け止められたと思う。

(4) 会員が意識を共有し、活用の目標が一致した。

(5) 一般社団法人となり、活動の体制が整った。

●3月、定款認証、法人登記を行った。

(6) 都市計画、文化財、観光など
様々な分野の連携体制ができた。

●例えば、検討会には必ず都市計画職員が出席するようになった。

●モニターツアーは観光コンベンション協会や街道沿いの他のまちの住民団体と連携した。

(7) 風待ちで保存活用を目指す

歴史的建造物が広がった

- 千田家住宅の所有者が保存活用意向を固め、検討会に一任された。



(8) モニターツアーが反響を呼び、

春以降、本格実施の見通しがついた

(9) 風待ちの復興まちづくりに

寄与する保存活用の第一歩を踏み出せた

4

事業実施上の課題

- (1) 復興計画がなかなか進捗せず、
情報収集や調整に時間がかかった。
- (2) 検討会が主体となった募金活動実施までは至らなかった。
- (3) 効果的な情報発信まで手が回らなかった。

5

今後の課題

- (1) 保存活用計画に基づき、第二段階に進む。
 - 都市基盤整備に伴う一時曳き家など
 - 基盤整備を予定していない地区の登録文化財の本格修理
- (2) 検討会からの積極的な情報発信と募金の本格的実施。
- (3) 上と連動した「風待ちツアー」の本格的実施。